

中学校競技生活の集大成

小城・多久地区中体連開催

7月19、20日の両日、多久市・小城市内で地区中学校総合体育大会が開かれました。

連日30度を超す猛暑の中、どの競技の選手も日頃の成果を一杯発揮。観客や仲間の声援を力に、悔いのないプレーに集中していました。特に3年生は中学校最後の試合で競技生活も終わるとあって、試合終了後に見せた涙も悲喜こもごもでした。地区大会での上位入賞チームはさらに県大会(7月29～30日)へと駒を進めました。



市長のWindow

市長コラム

▼市民のみなさんへ

ふるさとの原風景

「がばいばあちゃん」ロケが南溪分校で行われそうだ。教室や周囲の野山が昔なつかしく、故郷の原風景に近いからとのことらしい。詳しくはこれからだが多久発信に活かしたい。

なつかしい風景といえば、7月はじめの「関東多久の会」総会で岡田史一会長がとても印象深い話をしてくださった。

「自分たちの子供の頃、生活は豊かではなかった。夕飯時に味噌や醤油が切れたこともあった。そんな時は近所から分けてもらった。困った時はお互い様の心が皆にあった。力を合わせて生きる近所づきあいにはまさに故郷の原風景になっている」。

そこには、ウサギ追いしかの山…と歌うときにまぶたによみがえる思い出がある。そんな助け合いを基に、不満を誰かにぶつけず、自分で黙々努力してきた人々がいる。そのおかげで今日があることを私たちは忘れてはならないと思う。岡田さんは「ふれあいや慈しみが薄くなり、凶悪事件も起きるのではない。大切な故郷、その未来を私達も応援しよう」と結ばれた。

不思議に心に沁みた。確かにほんの少し前まで経済的豊かさはまだまだだった。親が自分の食事をがまんして子に食べさせたこともあったろうし、飽食ではなかった。今のように誰もが携帯電話でメールする光景は夢想すらできなかった。むしろひとり静かな時間があった。風や水の音、星の輝き、雲の流れに我を忘れた時もある。読書したり、自分を見つめたり。ぼつりぼつりと語り合ったり。そんな思い出が故郷にはある。

故郷に生まれ、激動の時代を乗り越えた先人のおかげで今の繁栄があることに感謝し、先祖や先人に思いを馳せる季節がきた。里帰りの出会いにも新たな光を生み出したい。(俊彦)

市長交際費支出状況

▼平成20年度6月分

支出種別	区 別	件 数	金額(円)
弔 慰	今月分	3	15,000
	累 計	6	35,000
見舞い	今月分	2	20,000
	累 計	2	20,000
御 祝	今月分	3	23,255
	累 計	16	86,555
賛 助	今月分	3	18,000
	累 計	4	23,000
激励金	今月分	0	0
	累 計	0	0
接 遇	今月分	2	128,500
	累 計	2	128,500
会 費	今月分	1	3,000
	累 計	6	38,500
その他	今月分	0	0
	累 計	3	11,760
合 計	今月分	14	207,755
	累 計	39	343,315

◎詳細は市のホームページに掲載しています。

■問い合わせ 総務課・秘書係 ☎75-2115